



ふじもとともこ
藤本智子

にほんきょうさんとうつしぎだん
日本共産党津市議団

命を守る救急医療体制の充実について

問 年間1万3千件を超える救急出動が行われている。輪番病院は受け入れより断る件数の方が多い。輪番病院の努めを果たしているといえるのか。病院収容まで電話で10回以上問い合わせるケースが2%程度ある。救急搬送を受け入れるための「応急診療センター」を開設し、まず救急搬送に対応するシステムをつくる必要があるのではないか。

答 輪番病院における当直については、専門医を雇用できない実態があり、内科系と外科系の医師が2人1組で勤務いただくのは厳しい状況にあり、受け入れ困難要因の一つとなっている。

受け入れ態勢を充実するため遠隔画像診断システムの導入や医師派遣事業等を実施してきたが、引き続き受け入れ態勢の改善、充実に取り組んでいく。

また、応急診療センターのような施設があれば、一次的な応急処置と二次救急への判断を行うことができるものと考えているが、現在、救急医療体制の総合的な見直しを考えており、一次救急がどのように二次救急をサポートできるのか、医師会、輪番病院、三重大学と十分に協議し、どのような形の救急医療体制が構築できるのか検討していく。

●その他の質疑・質問●

- 日常生活道路の維持管理計画について、自治会要望に応えられるよう整備計画の策定を
- 河川の堆積土砂撤去について、県管理河川は県の責任で土砂捨て場を確保するよう求めよ
- 安濃体育館など指定管理者制度移行以前に発生している修繕必要箇所は、市の責任で対応を
- ポルタひさいの経営破綻のつけを市民に押し付けるな など



▲「川をきれいに」の看板が泣く土砂が積もり木が茂る川原



ひらおかますお
平岡益生

こうめいとうぎいんだん
公明党議員団

歯と口腔の健康づくりについて

問 文部科学省の調査によると全国平均のむし歯本数は1.29本で、津市においては1.67本とむし歯の本数が多い。フッ化物洗口を導入している地域のむし歯本数が0.66本とその効果が表れている。12歳児は永久歯のスタート地点であり、80歳で20本の歯を残せるよう小中学校における児童及び生徒の歯と口腔の健康づくりの推進を図るため、フッ化物洗口導入の考え方を伺う。

答 歯の健康を守るということは非常に重要なことであると認識しており、各学校では歯磨き習慣の定着を図るなど、生涯にわたって健康な生活を送る基礎を培うよう保健指導を行っている。また、歯科検診結果を家庭に通知し治療完了の確認をしている。

学校でフッ化物洗口を行う場合は、集団で効率よく継続的に行え、各家庭での保護者の負担も軽減されるなど、意義あるものと考えているが、導入にあたっては、使用方法の徹底指導、保護者への同意の問題なども考えられる。今年3月に施行された県の「みえ歯と口腔の健康づくり条例」を受け、県が策定中の基本計画の内容を踏まえ導入について検討していく。

●その他の質疑・質問●

- 歯と口腔の健康づくり
 - ・歯周病予防強化策は
- 生活保護自立支援プログラム
 - ・就労に結びつく自立支援策は
- 予算メリットシステム
 - ・評価委員会設置の考えは
 - ・評価の結果と事例の公開は
- 防災行政に係わって
 - ・災害時の情報伝達方法は
 - ・各地域防災訓練の実施状況は
 - ・住民・事業所アンケート など



▲歯と口腔の健康づくりに関するパンフレット